

わ たの 和して楽しい

4月20日～4月26日

中国の印象

新市 田中英子

中国に行けるんだ!!。テレビ画面の美しい風景、パンフレットの朱色の天安門が脳裏をかすめる……。そんな日々が出発まで続く。

大阪を飛び立ち、上海の上空にさしかかると、菜の花と麦畑の緑が迎えてくれる。

いざ上海に降り立つて見ると人々の目がいつせいに襲いかかってくるように感じた。何か違うなあと思いながらバスにゆられて玉仏寺に行くと、そこでも人、人でいっぱい、祈る人早口で話す人、そんな人をかきわけ

山水の元絵極まり

風光る



漓江下り

ながら雑踏の中を歩いていると中国十億人を感じる。

杭州に向う汽車の中でも菜の花やいろいろな作物、人、動物が飛ぶように車窓から消えてゆく、そんな中、広い田畑を耕やすのに、手作業が多くて、農業機械は殆ど見かけなかった。

西湖にて遊覧船に乗る。船の上からの風景は、まるで絵のように美しい、そしてジャスミン茶のおいしかったこと(中国はどこへ行ってもお茶の接待を受ける)人、人、人の波、花港公園ではあまりの人の多いの、迷子になるのではと緊張した。こんな時皆んな揃いの黄色のわらじ会の制服を着ていて大変助かった。

桂林は美しい所、そう聞いていたが、まさにその通りだった。漓江下りで見えたあのそそり立つ両岸の山々、新緑の木々、水牛とあひるの群、のんびりと見送る川岸の住民、一幅の絵だった。毛主席の眠る北京に五日目に着く、旅もあと少しだ。明日はこの旅の目的地「万里の長城」だ。紀元前二百年の昔から人々の悲しみ、喜び、そして戦い、何もかもじつと立ちつくして風雪に堪えつつ見守ってきた歴史の城壁を、一步一步あるきたいと思ひながら眠りに就く。一夜

天安門赤旗厳と風薫る



天安門広場

活があり、発展途上国としてのいろいろな苦悩の顔ものぞかせているように思える。

しかし中国は長い歴史と豊富な資源に恵まれ、人々の努力によってゆつくりと着実に先進国に近づきつつある。

この旅で見たオモチャを売っている少年の笑顔と、雄大な景観は私の心いつまでも残ることであろう。でも一週間の旅ではほんの中国の一面しか見えないのであろう。もう一度行きたいな!!。

杏の花にのたうつ如し

城長く



万里の長城に立つわらじ会